

□総務環境委員会

テーマ	市民からの主なご意見	現時点での議会の考え方
防災	<p>・町内会加入率が低下する中、災害時に町内会未加入者の安否確認や情報伝達についてどう対応したら良いか不安である。結ネットや防災ラジオなどもあるが、高齢者や難聴者には使いづらい面もあり、誰もが確実に情報を受け取れる仕組みを整えてほしい。</p> <p>・指定避難所の多くが体育館であり、段差やトイレ、動線などの面で高齢者や障がいのある方、子ども連れにとって利用しづらいとの声がある。また、夏場は非常に暑く、冷房や送風機などの設備が必要であるが、地域が負担して空調を整備した事例もあり、避難所の環境整備を進めてほしい。</p> <p>・一般の指定避難所では高齢者や障がいのある方、持病のある方などの要配慮者が安心して避難できない。福祉避難所の制度はあるものの、場所や対象者、利用方法、運営体制などが地域に十分周知されておらず、災害時に本当に機能するのか不安である。</p>	<p>・市では防災行政無線や防災ラジオの貸与、結ネットの活用など多層的な情報伝達手段の整備を進めている。町内会加入率の低下は全市的な問題であり、災害時の情報伝達とあわせて重要な課題と認識している。誰もが確実に情報を受け取れる仕組みの在り方について、引き続き、調査・研究し、行政に対応を働きかけていく。</p> <p>・委員会では「防災」を重点調査項目に掲げて、先進自治体の視察や市民団体との意見交換を行うなど、多様化する市民ニーズに対応した避難施設の在り方についても調査研究を行っている。市では、国の補助等を活用しながら避難所となる施設の環境整備を進めているが、スピード感を持って整備が進むよう提言していく。</p> <p>・市では福祉避難の方法や運営体制の整備を進めているが、今後は実際の訓練などを通して課題を整理し、運用の実効性を高めていく必要がある。あわせて、指定避難所の安全や環境改善にもつなげていくことも重要であるため、行政と情報共有し対応策を検討していく。</p>
山林売買・不法投棄	<p>・山林等の土地売買については市は把握できているのか、また地域外や海外からの取得により管理方法が分からずトラブルになることを心配している。産業廃棄物処分場のような大規模な土地取得も含め、地域の土地を守る仕組みを整えてほしい。</p> <p>・他地区からのごみの持ち込みや不法投棄が多く、その対応に困っている。市有地の退避場や県道周辺でも大量のごみが放置されており、清掃しても改善しない状況が続いていることから、罰則の強化や利用制限などの対策が必要である。</p>	<p>・山林の売買は民間取引によるものが多く、市がすべてを把握することは難しいのが現状である。現在は、景観条例等に基づく届出により一定の把握を行っているが、課題があると考えている。太陽光発電などの大規模開発もあり、国の制度改正の動向も踏まえながら、地域のルールづくりも含めて対応策を調査研究していく。</p> <p>・道路沿いや山林などへの不法投棄は法律で禁止されている犯罪行為であり、市では警察署などと連携して市職員による巡視や不法投棄禁止看板の設置などの防止対策を行っている。行政と情報共有し、実態を把握したうえで、啓発活動も含め対策の強化を働きかけていく。</p>

福祉文教委員会

テーマ	市民からの主なご意見	現時点での議会の考え方
小規模校の学校教育	<p>・小規模校ではICT授業のトラブルに対応できる専門人材が不足しており、加配減員の影響もあって現場の負担が大きく、人的支援の充実が求められている。</p> <p>また、教職員不足や複式学級、兼務体制により教員への負担が増しており、僻地赴任による一斉異動への懸念や、少人数校から大人数校へ進学する際の適応について不安がある。</p> <p>義務教育学校や特認校への期待はあるものの、通学手段やWi-Fi環境などの基盤整備が十分とは言えず、制度が先行し地域意見が十分反映されていないのではないかと不安感がある。</p>	<p>・少人数校に限らず全市的に、ICT教育における専門的知識・人材確保は急務として捉え、研修会による情報共有や、スキル醸成、均一的な配置についても促し、対応いただいている。環境整備についても学校ごとにばらつきがあるものではなく、統一的な環境構築が進められている。教育において支所地域の立地や人数規模が不利とならないよう、地域の実情やご意見、将来像をふまえ、議会としても現状を把握し、より良い環境構築を促していく。</p>
地域医療と介護	<p>・開業医の高齢化や介護人材不足により、地域医療と介護の体制が将来維持できるのか不安との声がある。デイサービスの縮小などにより地域で暮らし続けることが難しくなり、転出を余儀なくされる事例もあることから、医療の空白を防ぐ具体的な対策や行政の方向性を示してほしい。</p> <p>移動販売や地域交通の取組はあるものの、通院や買い物が困難な状況は続いており、移動支援や交通施策を医療・介護と一体的に考える必要がある。</p> <p>福祉関係機関や地域包括支援センターとの連携体制が分かりにくく、支援につながりにくいとの声もあり、独居高齢者を含め地域で支える仕組みの見える化と強化が求められている。</p>	<p>・地域医療と介護は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための基盤であり、その持続性の確保は重要な課題であると認識している。医療機関の維持や介護人材の確保については、国の制度とも連動する構造的課題であり、意見書や提言などを通じて国や県、市に対して対応を図っていく必要がある。</p> <p>移動支援や生活支援を含めた地域包括ケア体制の強化が求められており、関係機関の連携や効率的な役割分担を進めるなど、必要な支援が届きやすい仕組みづくりについて検討し、持続可能な地域医療・介護体制の構築に向け、研究を進め提言していく。</p>
文化継承・振興	<p>・伝統的建造物群保存地区について、地域では建物だけでなく橋や側溝などの生活インフラや沿道景観も含め、地域全体として整備を進める必要がある。指定範囲の内外で対応に差が生じ、同じ町内でも不公平感があるため、地域全体を対象とした説明と合意形成を進めてほしい。</p> <p>また地域では、祭りの担い手不足が深刻であり、アルバイトによる対応にも限界がある。高齢化や若者の地域離れにより行事や神社仏閣の維持管理が難しくなっており、このままでは伝統文化の継承が困難になるため、持続可能な担い手確保策を進めてほしい。</p>	<p>・各地域の歴史的な景観や、例大祭をはじめとする伝統的な行事は、高山市の魅力や個性を支え、市民の誇りや愛着を醸成する重要な要素であることから、その保全や保存には、特段の取組が必要であると考えている。伝統的建造物群保存地区をはじめとする景観については、都市基本計画や景観計画、各種条例等によってその保存が進められており、近年では町内会や商店街がまちづくり協定を締結するなどの動きもある。区域の設定における住民合意はもとより、ご指摘のエリア境界部分の解釈についても、丁寧に進捗いただくよう努めていく。担い手・資金不足についてもかねてからの課題として、文化財や伝統行事等の活用と保全が一体となった好循環モデルの事例等を参考に、より魅力ある文化や景観が保全されていくよう注力していく。</p>

□産業建設委員会

テーマ	市民からの主なご意見	現時点での議会の考え方
獣害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・熊が頻繁に出没しているが、対策は十分なのか。 ・熊の生態に詳しい専門家の意見を聞くべきではないか。例年よりも多く熊を捕獲しているはずだが、目撃情報は配信されるが、捕獲情報は無い。里山の管理も有効ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟免許保持者が高齢化していることから、市には猟銃免許やわな猟免許の取得、猟銃の購入の際、補助があります。また、国は緊急銃猟制度を創設し、県はドローンによる熊の追い出しを実施している。しかしながら、抜本的な解決策とはなっていないことから、今後も重要な課題として調査研究していく。
農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りについて、「令和の米騒動」も大きく報道された。現在の水稻農業についてどのように考えているのか。 ・高齢化や後継者不足が進む中で、管理ができていない田畑がある。また、機械の更新や農地の維持を個々の農家だけで続けていくことは難しくなっている。小規模農家は収益だけでなく農地や景観の維持、集落を守る役割も担っており、大規模化だけを前提とするのではなく、小規模でも農業を続けられるような支援の考えを示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物価や燃料高騰の影響は大きくなっている中で、米価格の上昇がいつまで続くか注視している。米の安定化、WCS（※1）や飼料用米などの補助も活用されているが、限界にきていると考える。 ・中山間地域では、小規模農家が農地や景観、集落を支えている現実があり、そうした農家が営農を継続できることが重要。市では「小規模農家等営農継続支援事業」を実施しているが、国や県の制度と合わせて地域の実情に合った営農継続の取組が重要である。 ・農業は中山間地域の重要な役割を担っていることから、農村RMO（※2）の推進等農業振興については重要課題として捉えている。
宿泊税	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税の用途として観光振興と地域おこし等があるが、古い町並周辺のルート、ガイド、体験メニューが市街地以外は弱い。支所地域の観光資源化に力を入れるべき。市街地だけでは観光が廃れるのでは。体験型メニュー増加への原資が地域の観光協会にほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支所地域にも観光案内所を設置してほしいという意見を伺っている。観光振興と地域づくりとして支所地域における広域連携の基盤構築が必要と考えている。
民泊	<ul style="list-style-type: none"> ・民泊が増加している中で、騒音やごみ処理など生活環境における問題が発生している。 ・民泊経営者への指導や連絡方法について示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各地で騒音等のトラブルの声が多く寄せられており、民泊に関するマナーの啓発を進める必要があると考える。 ・民泊については県（保健所）が管轄となっている。市は「高山市民泊ガイド」を事業者に配布し、周知に努めているが、課題が多いと認識しており、委員会でも調査研究していく。
空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ・町なかを中心に空き家が急増しており、老朽化して倒壊する前に商いや事業利用など活用方針を示してほしい。 ・空き家が増加している中で、犯罪組織が住み着くのではないかとという治安面での懸念もあり、市民が不安を感じている。より安全性の高い活用を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家情報については空き家バンクに情報を集約し情報提供されている。古くて危険な建物は壊して更地にするべきだが、費用面や、所有者の問題等の課題がある。市では空き家等対策計画を策定していますが、どの地域でも共通の課題であることから、引き続き、活用方法などの対応策について調査研究していく。

※1 稲発酵粗飼料：稲の米粒が完熟する前に、穂と茎葉を同時に刈取り、サイレージ化した粗飼料

※2 農村型地域運営組織：複数の集落機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織